

答弁者 市長

1 市長の政治姿勢について

- (1) 市長就任前の農林水産省勤務時代に故郷の課題をどのように捉えていたか。また、就任して4か月が経過し、首長として市政を担う立場となってから見た本市の現状についての所感はどうか。
- (2) 市長就任後、間もなく令和5年度予算を最終判断したと思うが、その際に財政担当者から聞き取って把握した本市の財政状況をどのように分析しているか。
- (3) 先の市長選で「さあ、復興の先にかじを切れ！」のキャッチフレーズと共に雇用の創出、一次産業の生産額倍増、大学誘致の3本柱となる公約を掲げた。実現するためには市長自らが先頭に立つことは言うまでもないが、市民や本市出身者、近隣自治体などの協力が必要と思う。今後の具体的な手立てをどのように考えているか。
- (4) 行政能力の向上や人的ネットワークを構築するためにも、今まで以上に国や県と職員の人事交流を図っていくべきと考えるがどうか。
- (5) 最近、全国の自治体の中には、行政事務の効率化を図るため、対話型の人工知能「チャットGPT」を活用する動きが出ている。本市での導入に向けた認識はどうか。

2 交流人口の拡大策について

- (1) 新型コロナウイルス感染症の広がりにより控えざるを得なかった交流人口の拡大策が全国で再始動している。本市の現状と今後の取り組みはどうか。

- (2) 観光客を招くには、情報発信策が最も重要と思う。国内向けと国外向けに、それぞれ市内の観光スポットを撮影したPR動画を作成してネット配信するなど、積極展開していく考えはないか。
- (3) 全国の観光地の中には、地元住民の生活に影響が及ぶほど多くの外国人が訪れて賑わっているケースもあるようだ。外国人の訪日が復活しつつある中で本市のインバウンド対策をどう考えるのか。
- (4) 観光で外国を訪れる際、その国の文化に触れるような体験を望むことが多いと思う。本市でも日本特有の文化が体験できるような外国人向けとなる観光メニューの開発が必要と思うがどうか。

3 水道事業について

- (1) 現在の本市の水道普及率はどれほどか。また、100%となる時期はいつごろの見込みか。
- (2) 令和3年度から上水道事業と簡易水道事業を統合し、下水道事業部門と組織統合したが、これらの統合によるメリットは何か。また、デメリットをどのように捉えているか。
- (3) 水道水を安定供給するためには、水源の確保や維持管理が大切と思う。特に、河川に隣接した水源の洪水対策、施設の管理体制は十分か。
- (4) 今後の水道事業の課題は給水人口の減少と思う。いずれは水道料金の値上げを余儀なくされる時期が来るのか。現時点での見通しはどうか。

答弁者 市長

1 老人クラブについて

- (1) 市は、老人クラブの位置付けをどのように考え、連携等については、どのような考えを持っているか。
- (2) 高齢者の活躍は、様々な場面で期待されるが、高齢者の社会活動の阻害要因は何と捉えているか。
- (3) 高齢者の社会参加は、地域の一員である意識の醸成が図られることに加え、生きがい作りや介護予防にもつながると思う。その受け皿である老人クラブへの積極的な支援も必要と思うが、考えはどうか。

2 市長の思う市政の現状と課題について

- (1) 就任から4か月余りが経過したが、市長は、今の陸前高田市の姿をどのように感じているか。
- (2) 市長は、本市の地域経済の現状をどのように捉えているか。
- (3) 市長は、企業誘致による雇用の場の確保や所得増には、これまでに培った人脈を活かしていくとのことだったが、これまでの手応えはどうか。

3 農業政策について

- (1) 米農家の方々は、様々な問題を抱えながら頑張っているように感じるが、どのように捉え、どのような対応をしているか。

- (2) ピーマンなどの水田転作作物の栽培を手がける農家が増えている。本市独自の転作作物が必要とを感じるが、見通しはどうか。
- (3) 本市農業の復興のシンボルとして、「たかたのゆめ」やピーカンナッツの普及に努めてきたが、現状と課題はどうか。

答弁者 市長

1 コミュニティの役割について

- (1) 本市に11あるコミュニティセンターと各種団体の重要性・必要性についてどのように捉えているか。
- (2) 本市コミュニティセンター条例には「センターに所長その他必要な職員を置く」と明記されているが、現状についての捉え方はどうか。
- (3) コミュニティセンター等の施設について、公共施設個別施設計画にその見通し等を示しているが、現在の進行状況はどうか。

2 観光施策について

- (1) 本市が有する特有の観光資源として、どのようなものをどのように捉え活用しようとするのか。また、市民との協働についての考え方はどうか。
- (2) 令和元年に認定された日本遺産「みちのくGOLD浪漫—黄金の国ジパング、産金はじめりの地をたどる—」をどのように捉え、活用してきたか。また、今後の考えはどうか。

小澤睦子 議員
(新志会)

答弁者 市長、教育長

1 ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進について

(1) 昨年9月9日国連障害者権利委員会から日本政府に対して92項目に及ぶ勧告があり、その中で、日本の特別支援教育を「分離教育」であるとして、障がいのある子とない子がともに学ぶ「インクルーシブ教育」へ移行するように改善を求められた。「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」で共生社会を目指す本市の「インクルーシブ教育」の現状はどうか、また課題は何か。

(2) 本市における、市内小中学校の特別支援学校との交流学习の現状はどうか。

(3) 今年3月の定例会での当局答弁で、「障がいのある方が経済的に自立した生活をおくるためにはさらに工賃の向上を図っていくことが重要である」との認識が示されたが、本市において、就労継続支援B型事業所での工賃をどの程度増額できると見通しているか。

(4) 昨年、北海道のあるグループホームにおいて、障がいのある人同士の結婚時に不妊手術を受けることを条件としていたことが問題となった。本市において、障がいのある人の結婚についての認識はどうか、また、支援体制の方向性はどうか。

2 陸前高田市地域防災計画について

(1) 本市における、災害時の要支援者名簿と要配慮者の個別避難計画の作成状況はどうか。

(2) 本市には現在約180人の外国人が住んでおられるが、災害時において外国人が迅速かつ的確に避難するための多言語及びやさしい日本語による避難情報の伝達体制はどうか。

答弁者 市長、教育長

1 未来へつなぐ東日本大震災の事実と教訓について

- (1) 震災の教訓を未来に伝えるための内容と手法をどのように認識しているか。
- (2) 復興期間が終了して事業が完了した現状において、改めて都市計画の専門家を交え、事業結果の事実から制度の課題を抽出し、その対応を引き出すことで震災の教訓とする考えはないか。
- (3) 震災の教訓を活かす意味で考えられた地区防災計画の現状と今後の課題をどのように考えるか。
- (4) 震災の事実と教訓を後の世代につなぐことにおいて大切と思われる防災教育は何か。また、現状をどのように捉えているのか。

2 地域の伝統と文化を大切にすることについて

- (1) 歴史文化基本構想と文化財保存活用地域計画策定の進捗状況はどうか。
- (2) 歴史文化基本構想と文化財保存活用地域計画は、まちづくり総合計画後期基本計画と次期教育振興基本計画においてどのような位置付けとなるか。

大坪涼子 議員
(日本共産党)

答弁者 市長

1 市民生活を守る緊急の物価対策について

(1) 震災後の苦労に続くコロナ禍に重なって、あらゆるものの物価高騰が市民や事業者に深刻な影響を及ぼしている。本市では今年度において、学校給食費の無償化、公営住宅の共益費補助や駐車料金引き下げ、さらに、国保税の負担軽減などが予算化されており、物価対策としても重要と思うが、実施状況はどうか。

(2) 今年度、地方創生臨時交付金が低所得世帯支援枠分（約5千万円）、推奨事業メニュー分（約8千万円）として交付されると思うが、本市の一般財源も活用し、市独自の物価対策も進めるべきと思う。

特に、住民税非課税世帯以外の低所得世帯や家計急変世帯などへの対象拡大、在宅介護世帯や障がい者世帯への支援、電力・LPガス代高騰分への支援などを取り組むべきと思う。本市の緊急の物価対策はどうか。

2 「はまかだ」運動はじめ今後の市民の健康と支え合いとまちづくりについて

(1) 「お茶っこの会」など震災直後から始まった「はまってけらいん、かだってけらいん」の「はまかだ」運動は、これまで市民の健康や支え合い、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」にとっても大事な役割を果たしてきたと思う。どのように認識しているのか。

(2) 本市は高齢化率が高くなっているもとでも、市民の健康寿命が高く推移していると聞く。「はまかだ」運動や震災前からの「玄米にぎにぎ体操」など明るく元気な市民自らの取組による影響もあると思う。健康寿命について本市の状況はどうか。

(3) 震災後の住環境の変化、コロナ禍などの影響でお互いの交流が少なくなってい

るもとで、「はまかだ」運動はじめ市民の健康や支え合いの取組がますます大切になっていると思う。今後の考えと取組はどうか。

3 高齢者のための配食サービス事業の拡充について

(1) 高齢者世帯の見守りも兼ねた配食サービス事業は4年目を迎えた。この事業は、高齢者に食事を届けながら健康状態や安否確認等の見守りを実施することになっている。実際に、「やさしく声をかけてもらっている」「お店の食事が自宅でできるので楽しみ」などの声も聞く。これまでの取組状況とともに、配食サービスを通して高齢者の様子をどのように把握しているのか。

(2) また、飲食業者や配送業者との協力により、よりよい配食サービスになるよう今後の協力連携体制はどうか。

(3) 一方、この事業は当初予算額に対しする実施実績は半分程度になっているようだ。この事業をもっと多くの人たちに利用してもらうために、「高齢者のみの世帯」だけではなく対象の拡大、現在400円の利用者負担の引下げ等の変更や、利用を働きかける体制を強めることを考えるべきと思う。利用者をもっと広げるための方策についてどのように考えているのか。

答弁者 市長

1 後期基本計画の策定における今後のまちづくりの構想について

- (1) 陸前高田市まちづくり総合計画後期基本計画の策定にあたり、前期基本計画をどのように総括・評価し、後期基本計画に活かしていくのか。
- (2) 後期基本計画には前期基本計画の考えを継続するもの、思い切って廃止するもの、新たに導入するものがあると思う。現段階においてどのような方針か。殊にも「基本構想」は10年の長期スパンで設定されているが、変更・更新の可能性はあるのか。
- (3) 政策のPDCAサイクルにおいて、実施の部分が重要である。政策を市民に最終的に届かせるための施策について、重要性をどのように認識しているのか。

2 孤独・孤立対策の意義について

- (1) 国全体における社会的構造の変化から孤独・孤立対策の重要性が論じられるようになってきているが、市としては社会的構造の変化も踏まえ、孤独・孤立対策の重要性についてどのように捉えているか。
- (2) 令和4年度の孤独・孤立対策の重点計画によると「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームによる地方自治体の取り組みの後押し」との記載がある。孤独・孤立対策において市の役割をどのように捉えているのか。
- (3) 市として、孤独・孤立のリスクをどのように認識し、その実態をどのように把握しようと努めているのか。また、国の調査結果をもとに市の状況を概算することも可能であると考えがどのように捉えているのか。

答弁者 市長、教育長

1 本市の子育て支援策について

(1) 本市の子育て世帯からは、県内市初となる小中学校の学校給食費無償化に対し助かっているという声が上がっている。その一方で、中学校や高校の教育費は、特に多子世帯への負担が大きいという現実もある。本市中学校の教育費について、どのように捉えているか。また、多子世帯へ準要保護世帯としての就学援助対象拡大の考えはどうか。

(2) 本市は中学生を対象に制服リユース事業に取り組んでいるが、現状はどうか。また、高校生を対象とした同事業の展開を考えているか。高校生対象の事業展開の場合、その担い手として保護者の活動団体の育成や保管場所の相談対応など、行政としてできることはないか。

2 農産加工力の強化について

(1) 6次産業化や地域経済循環を推進する本市として、道の駅高田松原や各産直などでの本市産農産加工品の販売実績や魅力について、どのように評価しているか。

(2) 令和3年6月の食品衛生法改正を受け、漬物の製造と販売をする場合には事前に営業許可が必要となり、改正前から製造販売を行っていた場合には令和6年5月31日までに営業許可の取得が必要となった。他の食品を含め、農産加工を行っている人たちからは、情報不足であるとの心配の声が上がっている。また、令和2年度からは食品表示法で栄養成分表示が義務化されている。これらの法改正を受け、農産加工に対する本市の対応はどうか。

(3) 道の駅を中心に本市への来訪者が増加しており、市内産品の販売促進に農産加工の強化が必要と思う。なかでも衛生対策の強化や食品関連の法改正に対応した

施設・設備の在り方に対し、市として後押しの考えはどうか。

3 林業振興策等について

- (1) 本年6月4日に全国植樹祭が本市において行われ、脱炭素社会の実現や持続可能な林業の推進、その必要性が随所に見られた。今後、本市は私有林の再造林を支援する方針だが、どのように進めるのか。また、本市の参与として引き続き尽力いただく渡邊美樹氏は、本市の森1,000ヘクタールを管理・再生させ、森林クレジットを各企業に販売する考えを公表している。本市の考えはどうか。
- (2) 本市は、林業機械等購入事業や間伐材搬出促進事業等を実施している。しかし、現在の物価高騰に対し、農業や漁業のように燃油高騰対策事業も必要と思うがどうか。
- (3) 市内で道路や民家に隣接する立木が、近年たびたび発生する強風などで、建物、道路や歩道に倒れる事例が増加している。立木所有者が被害の未然防止に伐採を希望する場合に、市として可能な対応を検討すべきと思うがどうか。

4 漁業振興策について

- (1) 本市が取り組む、漁業共済の掛金補助の効果はどうか。
- (2) これまで本市は、漁業共済掛金補助について、県も賛同し支出を行うよう働きかけを進めてきた。今後もこの働きかけを継続し、実現に努めるべきと思うがどうか。

答弁者 市長

1 農業の再生について

本市の主産業の一つである農業は、従事者の高齢化・後継者不足が叫ばれて久しい。特に、震災後の離農者や耕作放棄地の増加が課題だと考える。

(1) これまでも後継者育成施策として、農業従事者や新規就農者支援施策をしてきたが、今後の農業従事者の育成についてどう考えるか。

(2) 耕作放棄地が拡大しているがこの対策をどのように考えるか。また、園芸作物や野菜栽培など換金作物の振興なども必要と考えるがどうか。

(3) 新たな作目として、これまでピーカンナッツに力を入れてきたと思うが、振興作物としての指定や普及を進める考えはないか。また、苗木の育成や全国展開、日本で初めての産業としてのピーカンナッツ栽培などを目指してきたが今後の展開をどう考えるか。

2 コロナによって変化した社会への対応と健康について

新型コロナウイルスのまん延によって行動制限など、人々の生活が著しく変化した。ほぼ丸3年間のコロナ禍での生活によって変化した生活が様々なことに影響を与えている。

(1) 3年ぶりの開催となったチャレンジデーだが、コロナ前に比べ参加者が減ったがこの結果をどのように考えるのか。また、その要因をどのように分析しているのか。

(2) 行動制限により人と会う機会が減り、「人と会うのがつらい」と感じる人が多いように感じるが、人とつながるのが不安で外出を控え、心と体の健康を害している市民が増えていると見えるがどうか。また、フレイル（虚弱）からウェルビー

イング（健康）に向かう取組はどうか。

- (3) 子どもたちの行動様式にも大きな変化があった。タブレット、スマホ、ゲームなど体を動かさない遊びが主となっているが、心と体の健康を育むために自然の中での遊びの場の提供も必要と考えるがどうか。

3 市民の命を守る活動と機材の整備について

年間の救急出動の回数が例年 800 件を超している現状において、市民自らが少しでも命を守る行動、知識が必要だと感じる。

- (1) 各種団体や地域、学校等に出前講座として救命救急の指導を行っているが、その状況はどうか。
- (2) 市内各所において、A E D（自動体外式除細動器）が見受けられる。A E Dの必要性をどのように認識しているか。また、管理上の問題もあると思うが、屋外で活動しているスポーツ少年団や様々なスポーツ活動の際にも A E Dが必要と考えるがどうか。
- (3) A E Dの普及が始まってから相当の年数が経過したが、A E Dの電池寿命は3年と言われ、本体そのものも医療機器ということから6年から8年が使用期限とされている。電池交換の負担ができず撤去される例も散見されるようになってきたが、電池交換等に要する費用軽減についてどのように考えているのか。
- (4) 間もなく、高田松原、広田の海水浴場がオープンするが、各海水浴場の監視体制等はどうか。

答弁者 市長

1 公契約について

- (1) 当初から随意契約のもの、当初はプロポーザルでその後随意契約になったもの、数十年間随意契約が行われ、今年度から突然条件付き競争入札になったものなど、随意契約の根拠が不明瞭と感じるがどうか。
- (2) 業務委託の契約期間が1年のもの、3年のもの等、様々である。明確な根拠に基づいて決められているか。
- (3) プロポーザルの指針が策定され運用されているが、課題はあるか。
- (4) 公募時の募集要項と契約内容が一致しないものがみられるがどうか。

2 陸前高田市人口ビジョン及び第2期まち・ひと・しごと総合戦略について

- (1) 陸前高田市人口ビジョン及び第2期まち・ひと・しごと総合戦略の中に「『陸前高田思民』のネットワークを広げることが重要」という文言がある。「陸前高田思民」の現状、今後の取組の方向性はどうか。
- (2) 陸前高田市人口ビジョン及び第2期まち・ひと・しごと総合戦略は今年1月に改訂され、官民連携事業として「日本庭園整備の推進」が加えられた。その経緯と現状、及び今後の方向性はどうか。
- (3) 本計画は令和2年7月3日に地域再生計画として認定を受け、企業版ふるさと納税の対象事業としているが、現状はどうか。

伊 藤 勇 一 議員
(碧い風)

答弁者 市長、教育長

1 国道343号改良と新笹ノ田トンネルの事業実施について

- (1) 国道343号の道路環境は、法面の崩落、がけ崩れ、狭あい、急カーブなどの危険な箇所が数多く存在しており、過去には数か月も臨時の迂回路を設置して通行を確保した時期があった。また、大雨による河川の氾濫から道路が冠水する箇所があり、未だに改善策が講じられず放置されている。市民生活を維持していく上でこのような危険箇所の早期解消についてどのように捉えているのか。
- (2) 県によると国道343号笹ノ田地区技術課題等検討協議会が開催されたようだが、検討結果と今後の見通しについてはどうか。
- (3) 新たな笹ノ田トンネルの整備について、県の動向を見据えながら本市として市民と共に早期実現への取組をすべきと思うが、具体的な行動や運動を考えられないか。

2 複式学級の在り方について

- (1) 各町に1校の小学校の体制を維持する計画で推移しているが、近年、4校に複式学級が現れたことから、地域関係者や保護者との協議をするという答弁が以前にあった。本年4月からさらに複式学級が増加しているが、現状をどのように捉えているか。
- (2) 市内の学校では学校運営協議会を組織して3年目であるが、複式学級に対して、どのような認識を持っているのか。また、今後の課題をどのように捉えているのか。
- (3) 複式学級を担当する教諭の負担について、調査を行っているのか。また、どの

ように把握しているのか。

- (4) 複式学級での運営や児童の学力、精神面の成長について、どのように捉えているのか。

3 防災対策について

- (1) 避難所における備蓄品や用具等の準備状況はどうか。また、ハザードマップの活用に関する広報や啓発などの取組はどうか。
- (2) 避難所までの移動経路や市道などの生活道路に大雨による洪水・氾濫・冠水が予想される地域がある。優先度の高い地区から改良していると以前の答弁にあったが、現在までの整備状況はどうか。
- (3) 市当局だけでなく、市内の道路愛護会や任意団体による道路管理が行われているが、側溝に落ち葉や流木などが溜まり詰まることで冠水被害になるところが見られる。市民の高齢化と人口減少による担い手不足により放置されることが原因の一つと考えられるが、今後どのように対応するのか。
- (4) 気仙町及び高田町の高台では、低地部から移転し住宅を再建した直後に、土砂災害警戒区域が判明したという地区が存在している。どのような経緯、経過なのか。また、今後の対策はどうか。

答弁者 市長、教育長

1 沿岸漁業振興とマグロ漁獲枠について

(1) 今年4月14日、大船渡市魚市場に気仙沿岸の定置網からクロマグロ265本が水揚げされ漁業関係者はかつてない活気となったが、その一方で、定置網でせっかく獲ったクロマグロを岩手県の漁獲枠に近づいているということから、泣く泣く大量に放流していると聞く。今回の一連のクロマグロ水揚げにかかる事態について市ではどのように受け止めているのか。

(2) こうした事態の根本的な問題は、大手水産会社も参加する大中型まき網はクロマグロ漁獲枠が沿岸漁業の2倍以上と優遇されていることにあると思う。まき網漁業が「根こそぎ獲る漁法」に対して、定置網は「待つ漁業」であり、水産資源の管理上も保護育成されるべきであると考えられ、放流による経済的損失についても補償されるべきと思う。今回の事態を受けて、国に対して、沿岸漁業振興の立場から、定置網漁業のクロマグロ漁獲枠の拡大等について強く訴えるべきと思うがどうか。

(3) 養殖漁業をはじめ沿岸漁業は、深刻な不漁、貝毒被害などの厳しい状況が続いているが、その一方で、市内では生産者や関係者の懸命の努力によって新たな展望も切り開いてきている。本市の地域経済の中心を担う沿岸漁業の今後の本格的な振興のために、関係者、関係団体と話し合いを重ねながら、沿岸漁業振興基本条例の策定も考えるべきと思うがどうか。

2 本市の奨学金制度の拡充について

(1) 異常に高い日本の教育費の負担軽減が少子化対策としても若者支援としても重要な課題となっている。市長は施政方針の中で、「公約の実現へ、まずは、給付型奨学金制度の創設につきましては、早期の制度設計を行った上で、補正予算で対

応したい」と述べている。作業チームを作って検討中と聞くが、進捗状況と実施時期の見通しはどうか。

(2) どのような制度にするのかが課題と思う。「給付型」の場合の対象とする人数や基準、「成績優秀」や「経済的事由」とした場合の考え方、さらに、給付額と財源確保など、新たな制度の中身について、現在どのようなことが検討課題、焦点となっているのか。

(3) 給付型奨学金制度創設とともに、これまでの奨学金制度の拡充も望まれる。月額や入学一時金の貸与額の引上げや、返済期間の延長、救済措置の拡充なども考えるべきと思うがどうか。

3 大雨、洪水、土砂災害対策について

全国的に昨今の線状降水帯発生など、大雨、洪水、土砂災害などが心配される。市内において特に危険と思われる箇所に対する対策を求める。

(1) 三陸沿岸道路整備以降、米崎町や気仙町において、大雨などにより大量の水が路面に集中し、従来からの水路に流れ落ちる事態となっているが、集落のある下流部の流末路はとくに改修されていない。国道事務所とも協議し緊急に対応すべきと考えるがどうか。

(2) 大雨、洪水時に矢作川の氾濫が危険視される矢作町金屋敷地区は、これまで孤立化防止対策と避難場所の設置等について、行政側との協議が進められてきた。その状況と今後の対策はどうか。